

ナース専科セミナー
サンスター株式会社協賛
「外来がん化学療法で看護師がすべき口腔ケア」
ーアセスメントから患者指導までー

開催報告書

2014年2月22日(土)開催

会場:ベルサール芝公園 ROOM2

参加者:看護師 34名

歯科衛生士 2名

外来がん化学療法で看護師がすべき口腔ケア ーアセスメントから患者指導までー

9:30 開場

10:00～11:20 講演1 **がん化学療法に伴う口腔合併症の看護ケア**

講師: 山田みつぎ

千葉県がんセンター がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師
NPO法人キャンサーリボنز委員

11:30～12:50 講演2 **がん化学療法中の口腔合併症対策 ー経口摂取支援としてできること**

講師: 上野尚雄

国立がん研究センター中央病院 総合内科・歯科 医長

12:50～13:00 **製品紹介**

須藤彰宏 サンスター株式会社

13:00～13:50 **昼食・休憩**

13:50～14:50 **実技 口腔ケアの実践 ー化学療法時に必要なセルフケア指導のために**

講師: 辻本好恵 サンスター株式会社 歯科衛生士

15:00～16:00 **事例報告 ー大阪労災病院での取り組みの紹介ー**

澤田恵里 大阪労災病院 歯科口腔外科 歯科医師

神原直実 大阪労災病院 がん化学療法認定看護師

16:00 終了

【講演1】がん化学療法に伴う口腔合併症の看護ケア

講師：山田みつぎ先生 千葉県がんセンター がん看護専門看護師・がん化学療法認定看護師

山田先生は、まず、がん化学療法が患者さんに与える影響について述べられ、治療を継続してもらうために看護師が大切な役割を担っていることを説明されました。副作用の中でも、口腔粘膜炎は患者さんの40%に発現し、そのうち50%が治療スケジュールを変更したり、投与量の変更を行っていることから、治療を継続していただくために口腔ケアは重要であると話されました。また、口腔粘膜炎のアセスメントを効果的に行うためのポイントや、口腔トラブルの予防と治療について述べられました。最後に患者さんがセルフマネジメント力を高めるために看護師が支援できることについて触れられ、実際の支援の方法について、ご自身の経験を話されました。



【講演2】がん化学療法中の口腔合併症対策 ー経口摂取支援としてできることー

講師：上野尚雄先生 国立がん研究センター中央病院 総合内科・歯科 医長

上野先生は、がん専門病院に勤務されている歯科医師の立場から、がん治療時の口腔粘膜炎は全身感染症の重大なリスクになり、摂食障害にもつながる可能性があると話されました。そのため、口腔の症状緩和や感染制御は、治療完遂のサポートとなり、治療予後にも貢献すると述べられました。また様々な症例と治療について説明されました。予期される口腔の副作用の内容や対応方法をあらかじめ患者さん自身が理解していることで、症状が出た時に安心して対応できることを強調され、患者教育が重要であると話されました。最後に、看護師に向けて、ぜひ、「患者教育」「口腔内のアセスメント」「セルフケア支援」「医科と歯科の架け橋」に力をいれて欲しいと締めくくりました。



【製品紹介】 須藤彰宏様 サンスター株式会社

サンスター(株)須藤様からは、バトラー口腔ケアシリーズの開発主旨や口腔トラブルのある方におすすめしたい製品特徴についてわかりやすいご紹介がありました。参加者は、昼の休憩時間に展示コーナーに立ち寄られ、実際にバトラー製品をご覧になったり、積極的に質問される姿が多く見られました。



【実技】 口腔ケアの実践 —化学療法時に必要なセルフケア指導のために— 講師： 辻本好恵先生 サンスター株式会社 歯科衛生士

午後の実践はまず、自分の口の中を鏡を使ってよく見ることから始まりました。口の中の状態を知り、清潔に保つことはセルフケアの基本です。その後、全員が歯の汚れの染め出しを行い、辻本先生の指導の下、歯ブラシを使って正しい磨き方を実践しました。

次に歯ブラシだけでは落とせない歯の間の汚れは、フロスや歯間ブラシを使って落とすことを、実際に体験しながら学びました。最後に、2種類の洗口剤の刺激の強さを参加者に体験してもらい、低刺激タイプのやさしさを実感することができました。



【事例報告】 大阪労災病院での取り組みの紹介

講師： 澤田恵里先生 大阪労災病院 歯科口腔外科 歯科医師
神原直実先生 " 看護部 がん化学療法認定看護師

地域がん診療拠点病院の大阪労災病院では、外来化学療法室での患者さんの口腔ケアに力をいれています。セミナーの最後にその取り組みについて伺いました。

まず、神原先生が外来化学療法室の概要を説明し、2013年11月からは外来化学療法室内に口腔外科診察室を開設し、移動距離も短く無料で診察するなど画期的な取り組みをされていることを紹介しました。看護師は患者のアセスメントを行い、リスクのある方に口腔外科医師に診察を依頼し、セルフケア指導をしているという実際の連携の流れについて詳しく述べられました。

次に外来化学療法室に常駐されている澤田先生が、外来通院患者の特徴と口腔有害事象について話されました。化学療法で口腔粘膜炎・菌性感染の悪化・味覚障害などが現れることから、セルフケア方法の再確認やアドバイスに力をいれていると説明。実際に先生が診察された症例と治療経過を見ながら詳しく述べられました。

診療の現場で、患者さんは主治医には口が痛いとはなかなか言えない方が多いですが、看護師さんには話せること方が多いため、ぜひ看護師さんにその役割を担ってほしいと話されました。痛みを我慢せずに相談してくれれば、口腔トラブルは改善できることも多いのでぜひ相談して欲しいと締めくくりました。

